

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園 グループホーム ~さくら棟~		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた広大な敷地に、2ユニットのグループホームとデイサービスを併用した施設で、園内にグラウンドゴルフ場、菜園、遊具、交流センターを設置し、活動や地域との交流に活用している。近隣には桃園や梨園、竹林等があり、季節感を楽しむ事が出来る立地である。デイサービスと合同のグラウンドゴルフ大会、敬老会、運動会、クリスマス会をはじめ、小学生登校時の挨拶運動、認知症サポーター養成講座、地域の皆様のカラオケ教室、各ボランティアの受け入れ、各町村の老人会や女性部の見学会等、地域密着型施設として地域との交流を大切にしている。職員の年齢層が幅広く、経験を基に情報を共有し、活かし利用者様との馴染み関係を築いている。家庭的な雰囲気の中で、残存機能を活かし、利用者様や家族様に安心して、信頼して任せて頂けるよう、寄り添う支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地内は手入れされた樹木や地域の園児や学童のために配置された遊具や運動会なども開催できるグラウンドを備え、庭先にある身近な『桜』と『うめ』がユニット名となっている。家庭的な寄り添いの支援を大切にし、方言を交えながら入居者と明るく談笑したり、活気あるリードでの体操の光景など訪れるものに安心感をもたらしている。日々の生活で楽しみの一つである食事に対しても、「入居者に美味しいご飯を食べてもらいたい!」と、食材購入から調理まで職員は工夫を凝らしながら、時には地域からの差し入れ野菜や特産の果物と一緒に旬の料理が日々の食卓に並べられている。併設デイサービスにお邪魔して得意の歌声を披露したり、仲の良い者同士で首にタオルをかけ散歩される方、ソファに座り食後のひと休みをされる方など居心地のよい時間を過ごす事ができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を目につき易い場所に掲示し、全職員で共有し常に意識するよう心掛けています。その年の方針や目標は、地域密着型サービスとして職員間で意見を募り、検討し見直ししながら支援に活かすようにしています。	自然を愛し・地域を愛し・人を愛すの運営方針を柱とし、年の方針や目標については毎年見直し、入居者を支える身近な内容を職員間で検討している。人事考課時には、理念や目標の振り返りも行われている。これらはホーム内への掲示をはじめ、家族や運営推進会議などで説明し、周知を図っている。	リビング内に理念等が掲示されているが、位置が高く目に届きやすいという点では、検討が必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校との交流会、登校時の挨拶運動、地域の方の施設見学会、ボランティアの受け入れ等年間を通して実施し、敷地内の交流センターや園庭内の遊具を開放し、地域の皆様との交流に努めている。	併設するデイサービスを含む施設建物や、交流館は地域名の『おおづる』と付けられている。交流館の開放、小学校との相互交流や登下校の見守りなど継続して取り組み、地域の一員となる姿勢や思いは様々な資料や管理者からの聞き取りにも現れていた。見守り隊員として小学生を見送る入居者と職員の姿、登校する学童の笑顔の写真からも、地域の中のホームの日常が伝わってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と一部の職員は、認知症サポーター養成講座を受講し、地域の各会議や認知症徘徊模擬訓練に参加し協力している。小学生との交流会時、認知症についての講義を行い、理解を深めて頂く場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、町の各分野、利用者様、家族様代表に出席して頂き、2か月間の利用者様の状況や施設の取り組みを報告し、話し合い、その後の支援や施設運営に活かしている。	地域(区長・民生委員・消防団など)や家族・入居者代表、行政の出席のもと、2ヶ月ごとに敷地内の交流センターで開催している。進行を行う管理者は出席者の立場からの意見や提案を引き出せるよう投げかけ、質疑内容に応じて運営者や主任・看護師が回答しており、記録もわかりやすくまとめられている。外部評価についてもネット公表について家族から質問が出ており、今後も自己評価を含め関係者への報告の機会を持っていきたいとしている。	開催場所がホームの建物と別であることから今後は、会議前などに入居者やホーム内の様子を見てもらう事で、より現状がわかると思われる。また、交流のある保育園や学校関係者などにも出席を依頼することで幅広い会議内容が展開されることが期待される。会議には固定された職員がメンバーとなっているが、時には他の職員も可能な限り参加する事で、会議の意義や職員の自信にも繋がっていくと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退居、各種手続きの代行、その他様々な連絡事項において、随時出向いたり、電話や文書で連携を取っている。入居待機者についても運営推進会議や電話等で報告し、相談している。	行政担当者や地域包括職員とは運営推進会議の席に加え、日頃から直接役所に出向いたり電話連絡により現況を伝えながら、ホーム運営についてアドバイスを受けている。また、行政関係者もホームを訪れ、介護イベントについての話しを行うなど良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に身体拘束をしない方針を掲示し、全職員で常に意識し共有している。利用者様の行動原因を全職員で検討し、状況に合わせた支援に努めている。園内外の研修、勉強会に参加し質の向上を目指している。	拘束のないケアを目指すホームは、玄関に『身体拘束排除宣言』を掲げ、職員は拘束のもとたらず弊害を理解し日々のケアにあたっている。家庭的な雰囲気でも温もりのある支援を目標にあげ、一人ひとりに応じたケアを全職員で共有しながら、自由で安全な生活ができるホームを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会や法人の全体会議の研修、勉強会等に参加し、高齢者虐待の事例を取り上げ検討しその徹底的な防止に取り組んでいる。利用者様には、常に敬意を持って支援する意識づけをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在実践しているケースがあり、引き続き支援すると共に、管理者は勉強会や申し送り等で情報を提供し、職員と共に共有し勉強している。弁護士等の専門職とも連携し取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、管理者、担当者が利用者様や家族様に要望等を伺いながら、解り易く時間をかけて説明し、必要事項においては同意書をいただき、書類内容の改定時には、その都度文書でお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やサービス担当者会議時等に利用者様、家族様のご要望を伺い、検討し運営や支援に反映させるよう努めている。意見箱や苦情受付窓口設置の説明を行い、運営推進会議でも意見をいただいている。	管理者は入居者と1分でも2分でも寄り添う時間を持つことを指導しており、リビングや廊下で入居者との微笑ましい光景が見られた。家族の面会時には職員と共に管理者も可能な限り対応し、何かあればまずは家族へ連絡を入れ報告を行うなど信頼関係が築かれている。また、運営推進会議には家族代表者も出席しており、必ず、要望等を確認している。苦情相談窓口については、入居時に説明を行っている。これまで苦情等は出されていない。	苦情などは出されていないが、「地震後に緊急時の対応策をしっかりとて欲しいこと」や「入居者ができるだけここに居たい・ここがいいと思われるような支援を願います。」などの要望が出されている。家族の意見をサービス支援に繋げるために、職員間で内容を検討したアンケートの実施に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の業務や勉強会に於いて、各職員が意見や提案を出し易いよう雰囲気作りに努め出来るだけ運営に反映させるようにしている。半期に一度、人事考課を行い話し合いの場を設けている。	管理者は自身も日々の業務にあたりながら、職員とコミュニケーションを図り意見や提案が出しやすい環境に努めている。また、主任や看護担当者と連携しながら職員の拘える疑問などにも早急な対応が取れるようにしている。法人代表者も運営推進会議や行事の際などにホームを訪れており、法人全体でホームを支える体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎の人事考課に於いて、職員各自の自己実現項目について公平に評価、助言し、次期目標に繋がりが持てるようにしている。日頃より、職員の会話に耳を傾け、意見交換が出来るような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や専門分野に関する外部研修への参加、専門誌の定期購読等で職員のレベルアップを図っている。各種の資格取得も奨励し、勉強資料の提供、指導協力等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて交流の場を持ち、定期的に研修や勉強会を開催し、意見交換を行い、お互いのサービス向上に活かしている。敷地内の交流センターを会議等の場として提供する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後の生活が極端に変化しないように、面接調査を基に本人様お話しして想いを引出し、信頼関係作りに繋げ、家族様やケアマネージャと連携して生活歴を把握しプランに反映させ利用者本位の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、家族様の要望を出来るだけ受け止め、相談しながら安心して頂けるようなサービスを提供している。面会時やサービス担当者会議でも、意見を伺い検討して支援に活かす事で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報共有、意見交換を充分に行い、本人様、家族様の要望や意向に沿ったプラン作成を行い、小さな事についての相談も受け止めて、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に生活の場である事を意識し食材の買い物や下拵え、食事をを共にする事で話題も多く生まれ楽しまれている。昔ながらの知恵をお借りして行事等に活かし毎日の状況をお話し出来るだけ自立支援に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等への参加を呼びかけ、面会時は居室等で利用者様との時間をゆっくり過ごして頂き、写真撮影を行う事もある。利用者様の受診に付き添って頂いたり、外食や外泊にてご家族で過ごされる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節毎の馴染みの神社への参拝や花見のバスハイク、併設のデイサービスの利用者様との交流、家族様との外食や冠婚葬祭時の外出、地域の方々の面会時の交流等、馴染み関係の継続の支援に努めている。	地域での催しや観音様参りなどに出かけることで、懐かしい時間を味わったり、知人との再会を楽しむ機会を後押ししている。また、家族や親類などの面会を働きかけこれまでの関係が途切れないようにしている。入居者の特技やこれまでの生活が継続できるように努めており、菜園管理や掃除など得意分野を発揮できる環境を整備している。首に掛けたタオルで汗を拭いたり、笑いをこらえながらタオルで口を押さえたりと、馴染みのスタイルでホームの生活を満喫している入居者同士の光景が印象的であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の個性や状態を把握し、その都度声掛けを行い、日常生活や行事活動を通してそれぞれの居場所に配慮して支援している。利用者間の馴染関係を大切にし、喜びを共有出来るような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院や他施設への入所時は、必要な情報提供を行い、機会があれば面会し家族様からの相談等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を配し、出来るだけ本人様の想いに添えるよう全職員で検討し支援に繋げるよう努め、ケアプランを基にモニタリングを行い勉強会で検討し、家族様にも連絡を取りながら、利用者様本位の支援を行っている。	担当職員を中心に入居者の思いや暮らしの希望などを把握している他、他の職員も日頃のケアの中で気づいたことを積極的に発信している。特に、入浴中は思いを寄せられる事も多く、ゆっくりとしたケアを心がけている。また、家族からの情報を得るために、電話連絡や面会時に近況を伝えながら意向を確認し、困難な方に対しても本人本位の対応に繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャや他施設からの情報、面接調査、アセスメント資料等を参考に、本人様と向き合い、家族様の協力を得ながら、情報を収集し利用者様本位の生活や環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事量のチェック、排泄チェック等を行い、日常に於いての利用者様の表情や活動状況を自然に関わりながら、それぞれに細かく観察し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれの状態観察を行い、毎日の申し送り、勉強会、サービス担当者会議で本人様本位のケアプラン作成、見直し、検討をしている。随時、家族様と連絡を取り、掛りつけ医と連携し支援している。	一人ひとりの入居者や家族の希望するホームでの生活が出来るよう、職員は会議や勉強会などで現状や課題を共有し、プラン作成に繋げている。作成したプランは家族に応じた時間や方法で丁寧な説明を行い、納得のもと了承を得ている。また、計画作成担当者は勉強会やモニタリング開催時にもプランの意義など職員へ説明を行うことで、意思統一を図り、実際のケアに活かすことできるよう指導している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のケース記録に記入しながら、ミーティングや会議で変化や気づきに応じて職員間で情報を共有し、検討し、見直し、利用者様本位のプラン作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスに於いて実施される3B体操に参加し交流されたり、腰痛や関節痛の緩和に施設の温熱器を使用される事もある。突然の受診や本人様、家族様希望による外出等にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎にバスハイク等で近隣地域に出かけられたり、地域の行事に参加されたりしている。地域の小学生との交流会で楽しめたり、子供たちの登校時の挨拶運動にも時折参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の要望を重視し、入居前からの掛りつけ医の継続や、近隣の医療機関との連携等安心されるような医療提供に努めている。必要時は、家族様と相談の上紹介された専門医の受診も実施している。	管理者は入居後の医療支援について、これまでの医療機関を継続できる旨を説明したうえで、本人・家族の意向を確認している。馴染みの医師との関りが入居者の安心となり、家族による受診対応は入居者の現状把握や外出の機会として活用されている。また、他の医療機関への移行にも速やかに応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師をはじめ、併設のデイサービスの看護師や掛りつけの病院の看護師等に相談し、連携を取りながら利用者様の状態把握に努め、必要に応じていつでも受診出来るような体制作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、安心して治療され、早期退院出来るように掛りつけ医と連携し、家族様と相談しながら対応している。病院関係者、地域医療連携室、ソーシャルワーカーと協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の高齢化に伴い、重度化や終末期に向けて、日頃より本人様、家族様と話し合いながら、看護師、掛りつけ医、他施設と連携して取り組んでいる。契約時に施設の指針を説明し、同法人の特養とも連携を取り、入所待機者の確認等を行っている。	重度化や終末期に関わる『指針』の中にホームの基本的な考えを明記し、家族に説明している。経年による入居者の変化に機会あるごとに家族と現況を共有し、今後について話し合う場を持っている。医療機関や法人施設と連携し、入居者に最良の支援を見出しながら、家族の「出来る限りホームで過ごして欲しい」という思いに応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し目に付く所に置き、緊急連絡網を掲示し全職員で共有している。普通救命講習や上級救命講習を受講し、AEDを設置し急変時に備え、日頃より状態観察を細かく行い早期発見に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の下、日中や夜間帯を想定した消防避難訓練を定期的を実施し、毎晩夜勤者と遅出者による避難訓練を行い身体で覚える習慣をつけている。自然災害訓練も実施した。地域合同訓練予定。(備蓄品完備)	夜間帯の職員による日々の小規模訓練は、体がすぐに反応できるようにという普段からの危機意識の表れである。年5回の避難計画に本年度は消防団や地域住民との合同訓練を組み込み、実施している。備蓄一覧表にて職員は内容を把握し、災害の危機管理体制に尽力している。	今回の熊本地震を受け、法人全体で研修の機会をもっている。地域との協力体制に向け取り組んでいるところであり、AED保有についても開示したり、講習会を企画するなどの取り組みにも期待したい。また、避難誘導の妨げになるようなものが無いかなど、今後も点検の必要性があると思われる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を充分把握し、特に入浴や排泄時は、マニュアルを基に全職員が統一した処遇、配慮を行い、無理のない範囲で本人様の残存機能を活かし、人生の先輩として尊敬の気持ちを込めた声掛けに努めている。	職員研修やミーティングの中で入居者への尊厳やプライバシーについて学び、共通認識をもって支援するよう努めている。開所から10年、普段から親しい中にも慣れあいにならず、節度をもって対応し特に言葉使いには注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様の目線に立ち、傾聴し、強要する事なく自己決定をして頂いている。困難な場合は、選択し易いような声掛けをし、出来るだけ自己決定を促すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のそれぞれの趣味や好まれる事は、進んでして頂き、時には促すも決して強要せず、お一人ずつのペースを大切に一日を穏やかに過ごされるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の口腔ケアや洗顔、整髪、爪切り等清潔保持に努め、本人様や家族様の要望に応じて、散髪や髪染め、パーマ等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養管理栄養士作成の献立を工夫し、畑の野菜を用い、時には利用者様が下拵え、盛り付け、下膳、食器洗い等をされている。各棟季節に合わせたメニューを考え、音楽の流れる中職員と共に楽しく食べられている。	法人の献立表を基本にしながらも菜園や地域からの差し入れの多いホームは、食材の変更や追加により、より季節感のある食事内容となっている。入居者も下ごしらえや後片付けなど出来ることに関わり、職員とともにテーブルを囲みながら楽しい食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養管理栄養士作成の献立を基に栄養が偏らないよう工夫し、その方に応じた形状で提供し、水分補給は定期的、又は必要に応じて随時出来るだけ行っている。摂取量は各ケース記録に記入し把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂き、必要時は介助し状態次第で液体歯磨き等を使用し清潔保持に努め、時には残り茶でのうがいを行っている。協力歯科医院の往診や保険センター指導員の訪問を受け入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に排泄状況を観察、把握し、その方本位の支援を行っている。排泄の時間、量、パッドの種類、排泄場所等、職員間で連携を取り、検討し見直ししながら、出来るだけ残存機能を活かした支援に努めている。	排泄用品や支援方法など個々の状況に応じて対応できるよう、ケア会議に限らず、その日その日で検討を行っている。また、職員間の連携がよく図られており、気づいた事を伝達し合う場面も見られた。夜間のみポータブルトイレの使用や布下着の着用など、高齢になっても習慣や残存機能を活かしながら排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食毎に汁物を提供し、献立にも野菜を多く採り入れ、毎日定期的にそれ以外にも出来るだけ水分補給を行い、排泄チェックをしながら、運動で身体を動かされるよう促し、便秘時は牛乳や繊維質の物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら、週に3回位を目安に、出来るだけその場に応じて柔軟に実施している。特に時間の制限はせず、ゆっくり入って頂いている。足浴や季節に応じて菖蒲湯やゆず風呂でも楽しまれている。	入浴を楽しみされている方も多く、希望や体調に配慮しながら週3回を目安にゆっくりとした時間を心がけている。また、発汗や汚染時はその都度対応している。拒否の方へは、声かけや誘導方法などを職員それぞれが工夫しながら対応しており、スムーズな入浴に繋がっていくことは職員のモチベーションとなっている。	菖蒲や柚子の季節湯は、全入居者が味わえるよう3日間行っている。今後は異食にも配慮しながら敷地内に咲いた花や柑橘など新たな変わり湯支援にも期待したい。また、浴室内に置かれた掃除用品などは別場所で管理することで、衛生面や寛ぎの場としても望ましいと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の体調や要望次第で自由に休んで頂き、状況や年齢を考慮して、その都度休んで頂いている。布団干し、足浴で清潔に努め、季節によっては電気毛布やあんか等の使用で安眠されるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、個別のファイルや薬専用のファイルにまとめ、毎日確認しながら準備し、職員間で連携を取り確実に服用して頂いている。常に掛つけ医や看護師と職員が連携を取り状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力や状況に応じて、洗濯物たたみや野菜の下拵えをして頂いている。散歩や草むしり、菜園作り、新聞折りやぬり絵、カラオケ等それぞれに好まれる事を随時して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に園庭や近隣への散歩、朝の挨拶運動買い物等に出かけられる。家族様とお墓参りや外食、選挙の期日前投票に行かれたり、帰省され外泊される事もある。又、年間を通して季節毎の花見や神社参拝のバスハイクで地域に出かけられている。	敷地内は芝生や樹木の手入れも行き届き、入居者は季節を感じながら散歩や散策を楽しんでいる。また、併設のデイサービスや別棟のユニット同士での交流も日常的に行われている。年間を通して花見や神社参拝など地域へ出かける機会も多く、家族へも広報誌や毎月の報告書で参加を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常に於いては、職員が管理している。買い物や外出、神社参拝時等は可能な限り、自立支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様等との電話のやり取りは自由にされている。届いた手紙や小包には必ず目を通され、年賀はがきや暑中見舞いを出来るだけ自筆で書いて頂き、近況報告をされるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、出入りし易いよう明るくして安全確保、清潔に努め、壁面は行事の写真や飾りで季節感を表している。時には窓を開放して外気を取り込み、食事時は音楽を流し雰囲気作りをしている。バルコニーや休憩所でお茶を楽しまれる事もある。	作りの異なるそれぞれのユニットは、職員がアイデアを活かしながら季節の壁面や入居者の作品を掲示している。場面に応じた音楽や、職員のメリハリのある声かけは入居者に安心感を与えている。植物や庭木などに関心のある入居者や職員も多く、玄関先には個別の花鉢やホーム内にも身近な植物や草花が活けられており、心和む空間となっている。	経年と共に掲示物も傷んでくることから、今後は定期的な見直しが必要と思われる。また、写真や入居者の作品などは直近の物を掲示する事で、本人の励みや家族などの楽しみにも繋がっていくと思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにある数個のソファに利用者様同士で気の合われる方が一緒に座られている。その場に応じてバルコニーやホールのテーブル、カウンターで過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れたタンスや椅子、思い出の写真、置物を居室に持ち込まれ、ご自分の家同様に馴染んで頂けるように支援している。お位牌を持って来られる方もおられ、毎日仏飯を供えてお参りされている。	入居時に馴染みの品や必要な品について説明しており、タンスや布団、思い出の写真などが持ち込まれている。日中は殆どリビングで過ごされるため、その間は換気や布団干しなどを心掛け、居室での時間を気持ちよく過ごせるようにしている。また、お位牌を持参されていられる方もおられ、手作りの置き台やご仏飯の準備を行い安心される声かけにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所は本人様の能力、状態を考慮し、入り口には名前を掲示し確認出来るようにして、台所やトイレは入り易いよう工夫し、ホールや壁面に季節の飾り付けをし視覚的に解りやすくして自立を支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園 グループホーム ~うめ棟~		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた広大な敷地に、2ユニットのグループホームとデイサービスを併用した施設で、園内にグラウンドゴルフ場、菜園、遊具、交流センターを設置し、活動や地域との交流に活用している。近隣には桃園や梨園、竹林等があり、季節感を楽しむ事が出来る立地である。デイサービスと合同のグラウンドゴルフ大会、敬老会、運動会、クリスマス会をはじめ、小学生登校時の挨拶運動、認知症サポーター養成講座、地域の皆様のカラオケ教室、各ボランティアの受け入れ、各町村の老人会や女性部の見学会等、地域密着型施設として地域との交流を大切にしている。職員の年齢層が幅広く、経験を基に情報を共有し、活かし利用者様との馴染み関係を築いている。家庭的な雰囲気の中で、残存機能を活かし、利用者様や家族様に安心して、信頼して任せて頂けるよう、寄り添う支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を目につき易い場所に掲示し、全職員で共有し常に意識するよう心掛けています。その年の方針や目標は、地域密着型サービスとして職員間で意見を募り、検討し見直しながら支援に活かすようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校との交流会、登校時の挨拶運動、地域の方の施設見学会、ボランティアの受け入れ等年間を通して実施し、敷地内の交流センターや園庭内の遊具を開放し、地域の皆様との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と一部の職員は、認知症サポーター養成講座を受講し、地域の各会議や認知症徘徊模擬訓練に参加し協力している。小学生との交流会時、認知症についての講義を行い、理解を深めて頂く場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、町の各分野、利用者様、家族様代表に出席して頂き、2か月間の利用者様の状況や施設の取り組みを報告し、話し合い、その後の支援や施設運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の入退居、各種手続きの代行、その他様々な連絡事項において、随時出向いたり、電話や文書で連携を取っている。入居待機者についても運営推進会議や電話等で報告し、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に身体拘束をしない方針を掲示し、全職員で常に意識し共有している。利用者様の行動原因を全職員で検討し、状況に合わせた支援に努めている。園内外の研修、勉強会に参加し質の向上を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会や法人の全体会議の研修、勉強会等に参加し、高齢者虐待の事例を取り上げ検討しその徹底的な防止に取り組んでいる。利用者様には、常に敬意を持って支援する意識づけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在実践しているケースがあり、引き続き支援すると共に、管理者は勉強会や申し送り等で情報を提供し、職員と共に共有し勉強している。弁護士等の専門職とも連携し取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、管理者、担当者が利用者様や家族様に要望等を伺いながら、解り易く時間をかけて説明し、必要事項においては同意書をいただき、書類内容の改定時には、その都度文書でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やサービス担当者会議時等に利用者様、家族様のご要望を伺い、検討し運営や支援に反映させるよう努めている。意見箱や苦情受付窓口設置の説明を行い、運営推進会議でも意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の業務や勉強会に於いて、各職員が意見や提案を出し易いよう雰囲気作りに努め出来るだけ運営に反映させるようにしている。半期に一度、人事考課を行い話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎の人事考課に於いて、職員各自の自己実現項目について公平に評価、助言し、次期目標に繋がりが持てるようにしている。日頃より、職員の会話に耳を傾け、意見交換が出来るような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や専門分野に関する外部研修への参加、専門誌の定期購読等で職員のレベルアップを図っている。各種の資格取得も奨励し、勉強資料の提供、指導協力等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて交流の場を持ち、定期的に研修や勉強会を開催し、意見交換を行い、お互いのサービス向上に活かしている。敷地内の交流センターを会議等の場として提供する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後の生活が極端に変化しないように、面接調査を基に本人様お話しして想いを引出し、信頼関係作りに繋げ、家族様やケアマネージャと連携して生活歴を把握しプランに反映させ利用者本位の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、家族様の要望を出来るだけ受け止め、相談しながら安心して頂けるようなサービスを提供している。面会時やサービス担当者会議でも、意見を伺い検討して支援に活かす事で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報共有、意見交換を充分に行い、本人様、家族様の要望や意向に沿ったプラン作成を行い、小さな事についての相談も受け止めて、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に生活の場である事を意識し食材の買い物や下拵え、食事をを共にする事で話題も多く生まれ楽しまれている。昔ながらの知恵をお借りして行事等に活かし毎日の状況をお話し出来るだけ自立支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等への参加を呼びかけ、面会時は居室等で利用者様との時間をゆっくり過ごして頂き、写真撮影を行う事もある。利用者様の受診に付き添って頂いたり、外食や外泊にてご家族で過ごされる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節毎の馴染みの神社への参拝や花見のバスハイク、併設のデイサービスの利用者様との交流、家族様との外食や冠婚葬祭時の外出、地域の方々の面会時の交流等、馴染み関係の継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の個性や状態を把握し、その都度声掛けを行い、日常生活や行事活動を通してそれぞれの居場所に配慮して支援している。利用者間の馴染関係を大切にし、喜びを共有出来るような支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院や他施設への入所時は、必要な情報提供を行い、機会があれば面会し家族様からの相談等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を配し、出来るだけ本人様の想いに添えるよう全職員で検討し支援に繋げるよう努め、ケアプランを基にモニタリングを行い勉強会で検討し、家族様にも連絡を取りながら、利用者様本位の支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャや他施設からの情報、面接調査、アセスメント資料等を参考に、本人様と向き合い、家族様の協力を得ながら、情報を収集し利用者様本位の生活や環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事量のチェック、排泄チェック等を行い、日常に於いての利用者様の表情や活動状況を自然に関わりながら、それぞれに細かく観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれの状態観察を行い、毎日の申し送り、勉強会、サービス担当者会議で本人様本位のケアプラン作成、見直し、検討をしている。随時、家族様と連絡を取り、掛りつけ医と連携し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のケース記録に記入しながら、ミーティングや会議で変化や気づきに応じて職員間で情報を共有し、検討し、見直し、利用者様本位のプラン作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスに於いて実施される3B体操に参加し交流されたり、腰痛や関節痛の緩和に施設の温熱器を使用される事もある。突然の受診や本人様、家族様希望による外出等にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎にバスハイク等で近隣地域に出かけられたり、地域の行事に参加されたりしている。地域の小学生との交流会で楽しめたり、子供たちの登校時の挨拶運動にも時折参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の要望を重視し、入居前からの掛りつけ医の継続や、近隣の医療機関との連携等安心されるような医療提供に努めている。必要時は、家族様と相談の上紹介された専門医の受診も実施している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師をはじめ、併設のデイサービスの看護師や掛りつけの病院の看護師等に相談し、連携を取りながら利用者様の状態把握に努め、必要に応じていつでも受診出来るような体制作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、安心して治療され、早期退院出来るように掛りつけ医と連携し、家族様と相談しながら対応している。病院関係者、地域医療連携室、ソーシャルワーカーと協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の高齢化に伴い、重度化や終末期に向けて、日頃より本人様、家族様と話し合いながら、看護師、掛りつけ医、他施設と連携して取り組んでいる。契約時に施設の指針を説明し、同法人の特養とも連携を取り、入所待機者の確認等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し目に付く所に置き、緊急連絡網を掲示し全職員で共有している。普通救命講習や上級救命講習を受講し、AEDを設置し急変時に備え、日頃より状態観察を細かく行い早期発見に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の下、日中や夜間帯を想定した消防避難訓練を定期的実施し、毎晩夜勤者と遅出者による避難訓練を行い身体で覚える習慣をつけている。自然災害訓練も実施した。地域合同訓練予定。(備蓄品完備)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を充分把握し、特に入浴や排泄時は、マニュアルを基に全職員が統一した処遇、配慮を行い、無理のない範囲で本人様の残存機能を活かし、人生の先輩として尊敬の気持ちを込めた声掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様の目線に立ち、傾聴し、強要する事なく自己決定をして頂いている。困難な場合は、選択し易いような声掛けをし、出来るだけ自己決定を促すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のそれぞれの趣味や好まれる事は、進んでして頂き、時には促すも決して強要せず、お一人ずつのペースを大切に一日を穏やかに過ごされるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の口腔ケアや洗顔、整髪、爪切り等清潔保持に努め、本人様や家族様の要望に応じて、散髪や髪染め、パーマ等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養管理栄養士作成の献立を工夫し、畑の野菜を用い、時には利用者様が下拵え、盛り付け、下膳、食器洗い等をされている。各棟季節に合わせたメニューを考え、音楽の流れる中職員と共に楽しく食べられている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養管理栄養士作成の献立を基に栄養が偏らないよう工夫し、その方に応じた形状で提供し、水分補給は定期的、又は必要に応じて随時出来るだけ行っている。摂取量は各ケース記録に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂き、必要時は介助し状態次第で液体歯磨き等を使用し清潔保持に努め、時には残り茶でのうがいを行っている。協力歯科医院の往診や保険センター指導員の訪問を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に排泄状況を観察、把握し、その方本位の支援を行っている。排泄の時間、量、パッドの種類、排泄場所等、職員間で連携を取り、検討し見直ししながら、出来るだけ残存機能を活かした支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食毎に汁物を提供し、献立にも野菜を多く採り入れ、毎日定期的にそれ以外にも出来るだけ水分補給を行い、排泄チェックをしながら、運動で身体を動かされるよう促し、便秘時は牛乳や繊維質の物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら、週に3回位を目安に、出来るだけその場に応じて柔軟に実施している。特に時間の制限はせず、ゆっくり入って頂いている。足浴や季節に応じて菖蒲湯やゆず風呂でも楽しまれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の体調や要望次第で自由に休んで頂き、状況や年齢を考慮して、その都度休んで頂いている。布団干し、足浴で清潔に努め、季節によっては電気毛布やあんか等の使用で安眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、個別のファイルや薬専用のファイルにまとめ、毎日確認しながら準備し、職員間で連携を取り確実に服用して頂いている。常に掛りつけ医や看護師と職員が連携を取り状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力や状況に応じて、洗濯物たたみや野菜の下拵えをして頂いている。散歩や草むしり、菜園作り、新聞折りやぬり絵、カラオケ等それぞれに好まれる事を随時して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に園庭や近隣への散歩、朝の挨拶運動買い物等に出かけられる。家族様とお墓参りや外食、選挙の期日前投票に行かれたり、帰省され外泊される事もある。又、年間を通して季節毎の花見や神社参拝のバスハイクで地域に出かけられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常に於いては、職員が管理している。買い物や外出、神社参拝時等は可能な限り、自立支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様等との電話のやり取りは自由にされている。届いた手紙や小包には必ず目を通され、年賀はがきや暑中見舞いを出来るだけ自筆で書いて頂き、近況報告をされるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、出入りし易いよう明るくして安全確保、清潔に努め、壁面は行事の写真や飾りで季節感を表している。時には窓を開放して外気を取り込み、食事時は音楽を流し雰囲気作りをしている。バルコニーや休憩所でお茶を楽しまれる事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにある数個のソファーに利用者様同士で気の合われる方が一緒に座られている。その場に応じてバルコニーやホールのテーブル、カウンターで過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れたタンスや椅子、思い出の写真、置物を居室に持ち込まれ、ご自分の家同様に馴染んで頂けるように支援している。お位牌を持って来られる方もおられ、毎日仏飯を供えてお参りされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所は本人様の能力、状態を考慮し、入り口には名前を掲示し確認出来るようにして、台所やトイレは入り易いよう工夫し、ホールや壁面に季節の飾り付けをし視覚的に解りやすくして自立を支援している。		